

和の光

宝塚市立西谷中学校



教頭も だだの教師だ 人間だ

教頭 榎木 努

作文はおしゃべりと違って緩急（スピードの出し入れや声の変化）がつけられないから苦手だ。というより嫌いだ。今日もまた、新しい人の原稿が学校通信に載った。多分、もう残りわずかなはず。校長先生は「急がないから」と優しく言うてくださるけれど、他の人のものを読むとついつい比べてしまい、それでまた、壁がせり上がり、原稿が遠くなり、ズルズル出せないままになる。

先日、思いがけず3年生の教室で話す機会があった。進路の学習（公立高の学科について）だった。担任の坂口先生に促されて自分の経験からの話をさせてもらった。坂口先生、ありがとうございます。何より、突然というのに聞いてくれた3年生の皆さん、ありがとう。

その時の話を背骨にして、学校通信の壁を「乗り越える」のではなく「回り道」してクリアさせてください。

3年生の皆さんには、時間の都合で話さなかった「おまけのような」話もあります。1・2年生の皆さんには、文字ばかりで目がチカチカするかもしれません。それでも、おつきあいください。

・・・・・・・・・・

「専門学科には行くな」

「行くな覚悟を持て」

授業では、上のような、少し強めのワードを上げています。兵庫県の公立高校には色々と特徴を持った学科があり、専門学科はそのひとつの仕組み上のグループです。私は、県立西宮高の音楽科で学びました。その経験を基に話しています。そして、この原稿は、その話を中心に前後に少し付け加えています。

・・・・・・・・・・

●12歳の希望

市内の小学校に通っていました。教室から家がダッシュで2分もかからなかったのが幸いして、忘れ物がほとんどなかった。（1日に2・3往復したことがある）

今ではあることなのだが、当時としては珍しく（初だったと思う）難病の同級生が地域の学校に通っていた。その子は2年生の途中で養護学校から転校してきた。ものすごく背が低かった私は列の先頭が定位置で、担任の先生にずっと世話になっていた流れでその同級生の車椅子を押すという役割を喜んでやっていた。何をやっても体格で負けてばかりだったところに体格ではない部分で認められているような気がしていた。そんな小学校の6年間は、4年もその先生が担任だった。ある意味、実の母親よりも怖かったけれど、すごいとも思っていた。卒業する時は将来、小学校の先生になりたいと思っていた。

●15歳の後悔

高校は県立の推薦入試で音楽科に入学した。「みっちゃんが行っているから」というのが志望のきっかけ。みっちゃんは、週に30分だけ稽古を出しにおやつを食べに行っていたピアノ教室の娘さん。残念ながらBOROさんみたいな胸がキュッとくる話はないが、おじさん、おばさんになった今も下の名前呼び合っている。

軽い動機で入ったクラスはどえらいところだった。1年生から週の半分以上が音楽の授業。40人で3年間クラス替えなし、男女別の出席番号で2番。（当時の私は「わ」で始まる苗字）「3歳からバイオリンやっています」とか「毎週、名古屋までレッスンに行っています」などとしれっという同級生たちに囲まれ、成績は後ろから1番。唯一、男子の同級生はピアノはいつもクラス上位だけど、生活のクセが強目で、時々、わからない理由で休むような子だった。そのせいで私は高校の3年間、ずっとクラス委員長兼保健委員兼体育委員兼体育係だった。声楽を専門としていたが、専門の先生は高3の時に「声変わり、やっと終わったなあ」としみじみ言っていた。

●18歳の絶望

大学には現役で入った。思い描いていた小学校の教員免許が取れるコースには入れなかった。不合格だったのではなかった。受験できなかったのだ。高校の3年間の半分以上が音楽の授業だったから仕方ないとは当時は思えなかった。

そんなスタートだった大学では、なかなか本気で勉強や「レッスン」ができなかった。専門の先生から出された課題（曲）には手をつけず、自分の歌いたい曲をしれ〜っと持っていくなど自由気まま過ぎる「キリギリス」学生だった。早い段階で「卒業までの単位をやるから、もうレッスンに来るな」と研究室出禁を言われた。学校で力を入れてしまったのは先生や他の学生のコンサートのお世話、ホールを押さえて、チラシやチケット、プログラムを作り、当日の回しをしていた。あとは電車の構内整理。毎朝、駅で満員電車におじさんたちを押し込むアルバイト。始めて1ヶ月後には、案内マイクの座を先輩から譲ってもらった。声と間合いがよかったらしい。

●23歳の含笑

教員採用試験に合格し、中学校の音楽の教員になった。小学校は叶わなかったけど、何とか滑り込んだ形だったので、まあいいか、と姫路市のさらに向こう側まで朝一番の新幹線で面接に行った。採用試験にあたっては締切前日に同級生に教えてもらって大慌てで申し込んだ。高校から7年間一緒だったその同級生にはずっと文句はあったけど、そのことだけで感謝に変えざるを得なかった。採用試験では、筆記試験の一次試験の時は、300人以上の受験のうち男性は30人足らずだったのが、実技の二次試験になると30人中15人が男性だった。多分、何かよくわからないラッキーがあったはず。

●54歳の願い

西谷中学校に着任した時のあいさつで、名前を覚えてほしいとお願いしました。すぐに校内で「榎木先生」とか「榎木教頭先生」と名前を入れて呼んでもらえるようになりました。西谷中のみんなは優しいな、素直だなと毎回思っています。教頭になって6年目ですが、こんなに多く名前を呼ばれることは初めてです。名前を呼ばれるたびに、西谷中や西谷中の皆さんがどんどん好きになります。

教員の仕事のひとつに、未来を生きる皆さんに力と知恵と勇気をつけてあげることがあると考えています。どうして勇気があるかというと、私たちは将来、今の法則や公式では解決できない課題に取り組まなければならないからです。困難なことに向き合ったとき、ひとり力や知恵で解決ができないことは、周りの誰かとつながって取り組む必要があります。困っているとき、考えるだけでくたびれてしまっているときは「困っているねん」とか「手伝ってほしいな」と口にするだけで100満点の解決にはならなくても、少し楽な気持ちになれることがあります。しんどい時や困っている時に、その状態を自分の言葉で伝えようとする勇気を持てるようになってほしいと願っています。ひとりで生きるのではなく、周りを支え、時に支えられ生きてほしいです。

まだまだ支えるより支えられることの方が多い、中学生の皆さんには、できる範囲で支えることと支えられるきっかけづくりに力を入れてもらいたいと思います。今の自分の気持ちや思いなどを伝えることです。気持ちの表し方はいろいろあります。文字を使ってもいいし、声や道具を使ってもいいです。きれいな飾り言葉を引っ付けなくても大丈夫です。あなたが「ちょっと話してみようかな」と勇気を出そうとしたとき、その勇気を受け止められる教員でありたいと思っています。

にっこり●● しっかり●● たくさん●● にんげんりょくだ 西谷中

■生徒会活動の様子



生徒会執行部のメンバー

西谷中では5名の生徒が生徒会執行部の役員として活躍しています。

生徒会とは、学校生活をより良いものにし、誰もが楽しく通える学校を創るために、生徒が力を合わせて活動するためのものです。このことを「自治」といいます。活動の内容によっては、先生方と相談をしたり、また支援を受けたりして進めていくこともあります。

生徒会活動の一例を紹介します。まずは、月に1度定期的に行われる「専門委員会」です。各専門委員会では、今月の活動について話し合い、「今月の活動目標」を設定してその活動に取り組みます。次に「生徒朝礼」があります。多くの学校は「全校集会」という呼び名ですが、西谷中では「生徒朝礼」という呼び名になっているのは、この朝礼（集会）は生徒が主体に進めるものという位置づけがあるのだと思います。私は、このことを西谷中学生のみなさんにしっかりと理解してもらい、今後も西谷中の伝統として「生徒朝礼」を大切に受け継いで欲しいと願っています。

この他にも行事において生徒会が活躍する場面がたくさんあります。先日開催された「ふれ合い運動会」を例にあげると、演技や競技に係る準備・放送のアナウンス・開会式と閉会式の挨拶・開会式の号砲など、生徒会の活躍場面がたくさんあったと思います。これも生徒会活動の一つです。つまり、行事の運営や内容の充実に生徒の意見が反映されているのです。

最後に、生徒会は5名の執行部だけではありません。執行部はみなさんの代表として、生徒会を運営し、その運営には生徒のみなさん一人ひとりが関わっていくのです。つまり生徒会とは執行部の役員5名を含めた西谷中の生徒全員です。現在、生徒総会の準備を進めていますが、より充実した生徒会活動ができるように、生徒全員で英知を結集していきましょう！！（校長）



生徒会 専門委員の活動の様子（月に1回開催される定例会）